システムを導入した．

◎ 情報・システムソサイエティ

情報・システムソサイエティの平成14年度の活動は以下のとおりである．

（1） 情報科学技術フォーラム(FIT：Forum on Information Technology)開催

本会会長，ISS会長，及び情報処理学会(IPSJ)会長により取り交わされた覚書に従い，ISSのソサイエティ大会とIPSJの秋の全国大会を統合した第1回「情報科学技術フォーラム」を2002年9月に4日間にわたり東京工業大学(大岡山)で開催した．特にFITでは従来の総合大会やソサイエティ大会では実施されなかった査読論文制度を導入し，レベルの向上を図った．査読論文の採択率は34%となり，計画どおりに実行できた．運営面では，投稿・登録や査読業務等がすべて電子的に実行され，効率化が図られた．また，会場での発表も電子的手段のみを用いて運営された．FIT船井業績賞・FIT船井ベストペーパー賞などを創設した．最初のFITとして様々な祝賀イベントも実施した．桑原　洋氏（総合科学技術会議議員），Alan Kay氏（Viewpoint Research Institute所長）等による特別講演，基調講演を実施した．一方，FITの知名度の問題に伴う財務基盤については，改善の余地がある．具体的には，ソサイエティ大会からの名称変更が原因で，図書館等による合本購入数が大きく減少し，両学会の従来大会の合計数を下回ってしまった．FITの名前・活動の周知等の努力が必要である．現在，改善策を考え，来年度FITの予算計画を進めているところである．また当学会独自のイベントも実施できるように，FIT推進委員会で検討中である．

（2） 第3回ソサイエティ論文賞の表彰及び記念行事

ISSでは，ソサイエティの独立性，活性化を図る施策として，サーベイ論文，先見論文，連作論文を選定対象とするソサイエティ論文賞を設立している．昨年度は先見論文，連作論文の二つのカテゴリーで受賞論文が決定されたが，本年度はサーベイ論文，連作論文各1件を表彰した．本年度は，下記フェロー贈呈式に引き続き，同じ会場で表彰式を行った．

（3） 第3回フェロー贈呈式及び第4回フェロー候補者推薦

上記FITの開催期間中に第3回のフェロー贈呈式を行い，21名の方々にフェローの楯を贈呈した．なお今後の贈呈式については，上記FITとの関係で従来ソサイエティ大会中に実施する方式がそぐわない面もあり，改善を検討している．フェローの講演については関連研究会で実施している．第4回フェローについては，推薦を寄せられた中からISSフェロー推薦委員会で審議し，約25名の方をフェローノミネーション委員会へ推薦する予定である．

（4） 国外学会との提携

IEEE及びIEEE CS (Computer Society)との協力関係について2002年1月に覚書に調印し，本年度も更新している．両者間の各種の協力及び相互の会員サービスの提供などが進められている．

（5） 財務基盤改善・課題

長期的な観点から財務基盤の改善が必要である．論文誌関係の経費削減の努力は地道に続けられている．各種の電子化も積極的に進める計画である．特にFITの収支，技報価格，論文誌編集経費について検討している．

◎ ヒューマンコミュニケーショングループ

平成14年度は，ヒューマンコミュニケーション基礎研究会（HCS），ヒューマン情報処理研究会（HIP），マルチメディア・仮想環境基礎研究会(MVE)，福祉情報工学研究会(WIT)の四つの第一種研究会，及び一つの第二種研究会「インタラクションによる知識の創生に関する研究会（KCI）」，及び一つの第三種研究会「手話情報学研究会（SiLE）」にてグループ活動を開始し，関連分野の研究活動の促進に務めた．

今年度からは従来のソサイエティ大会に代って，情報・システムソサイエティと情報処理学会が共催する「情報科学技術フォーラムFIT」の第1回大会であるFIT2002に参画し，二つの特集企画「五感研究の最前線とそのインタフェースへの応用」，「情報通信機器の非関税障壁になるか「米国リハ法508条」」を企画・実行した．来年度のFIT2003からは共催メンバーとして継続参加することとした．

また，HCG傘下の全研究会による恒例のHCG大会を，総合大会の会場と隣接して開催し，特にその中で特別講演「エンターテイメントコンピューティング」を開催し，HCGの新しい方向性への模索を進めた．

なお，従来どおり2回のニューズレターを発行し，ユニバーサルデザインを採用したホームページの運用も開始し，これらを使って学会員へHCG活動を積極的にPRした．

また，前年度に引き続き，HCG研究活動の活性化と今後の発展に向けた議論を深めた．

1. 大会に関する事項

1.1 総合大会

期　日　平成14年3月27日(水)～30日(土)

会　場　早稲田大学理工学部　大久保キャンパス（東京都新宿区）

参加者　6,244名

講演件数

大会委員会企画	1課題	3講演
ソサイエティ特別企画	7課題	30講演
パネル討論	13課題	70講演
チュートリアル講演	11課題	48講演
研究会フェロー講演	1課題	1講演
一般講演		3,074講演
シンポジウム講演		222講演
合　計		3,448講演

懇親会　リーガロイヤルホテル早稲田(東京)　参加者189名

1.2 ソサイエティ大会

下記の期日・会場において基礎・境界，通信，エレクトロニクスの各ソサイエティが合同して開催した．なお，情報・システムソサイエティ及びヒューマンコミュニケーショングループはソサイエティ大会とは別に情報処理学会と合同してFIT（情報科学技術フォーラム）2002を9月25～28日に東京工業大学（東京都目黒区）において開催した．

期　日　平成14年9月10日（火）～13日（金）

会　場　宮崎大学工学部・教育文化学部・農学部（宮崎市）

参加者　2,978名

懇親会　宮崎観光ホテル（宮崎市）　参加者　167名

（1） 基礎・境界ソサイエティ大会

特別企画	1講演
パネル討論	14講演
チュートリアル講演	9講演
一般講演	193講演
シンポジウム講演	21講演
合　計	238講演

（2） 通信ソサイエティ大会

特別企画	5 講演
パネル討論	50 講演
チュートリアル講演	20 講演
一般講演	965 講演
シンポジウム講演	122 講演
合　計	1,162 講演

（3） エレクトロニクスソサイエティ大会

特別企画	3 講演
パネル討論	9 講演
一般講演	396 講演
シンポジウム講演	57 講演
合　計	465 講演

1.3 FIT（情報科学技術フォーラム）2002

下記の期日・会場において情報・システムソサイエティ，ヒューマンコミュニケーショングループ及び情報処理学会が合同して第1回のFIT2002を開催した．

期　日　平成14年9月25日（水）～28日（土）
会　場　東京工業大学　大岡山キャンパス（東京都）
参加者　1,817名
懇親会　東京工業大学百年記念館フェライト記念会議室
参加者　100名
祝賀イベント　3講演
学術系企画　61講演，デモセッション2，デモブース17
企業系企画　18講演，デモセッション1
情報技術レターズ　127講演
一般講演　745講演
ホスト校企画　3講演，デモセッション6

2. 国際会議に関する事項

次のとおり開催した．

会議名	開催年月日	参加者数	論文数	場所
COOL Chips V	2002.4.18～20	193	34	機械振興会館
第16回通信品質と信頼性国際ワークショップ(CQR 2002)	2002.5.14～16	101	49	万国津梁館（名護市）
高性能スイッチ及びルータに関するワークショップ2002（HPSR 2002）	2002.5.26～29	204	111	神戸国際会議場
第7回光エレクトロニクス・光通信国際会議(OECC 2002)	2002.7.8～12	607	336	パシフィコ横浜
第7回ハイアシュアランスシステム国際会議(HASE 2002)	2002.10.23～25	80	34	東大山上会館（文京区）
2002年アンテナ伝播国際シンポジウム(ISAPi-02)	2002.11.26～28	262	110	横須賀リサーチパーク（YRP）
マイクロウェーブフォトニクスに関する国際ワークショップ(MWP'02)	2002.11.27～29	165	100	淡路夢舞台国際会議場
ヘテロ構造マイクロエレクトロニクス会議（TWHM 2003）	2003.1.21～24	130	58	万国津梁館（名護市）

3. 出版に関する事項

3.1 和文論文誌の発行状況

各ソサイエティ別（A·B·C·D）に5種類をそれぞれ次のとおり発行・配布した．

掲載総ページ数は8,738ページである．

分類／分冊	論文	レター	その他	計	特集回数	発行部数
	件数 ページ数	件数 ページ数	—— ページ数	件数 ページ数	回	部
A	121	36	——	157	2	92,800
	1,195	160	149	1,504		
B	228	62	——	290	5	159,800
	2,287	266	167	2,720		
C	141	45	——	186	2	104,500
	1,185	128	171	1,484		
D-I	86	15	——	101	3	69,200
	897	67	168	1,132		
D-II	163	29	——	192	1	99,900
	1,625	122	151	1,898		
計	739	187	——	926	13	526,200
	7,189	743	806	8,738		

＊ その他：総目次69ページ，巻頭言21ページ，英文誌紹介128ページ，特集号募集案内等付物588ページ

3.2 英文論文誌の発行状況

各ソサイエティ別（A·B·C·D）に4種類をそれぞれ次のとおり発行・配布した．

掲載総ページ数は10,812ページである．

分類／分冊	Paper	Letter	その他	計	特集回数	発行部数
	件数 ページ数	件数 ページ数	—— ページ数	件数 ページ数	回	部
A	280	91	——	371	13	29,000
	2,479	419	208	3,106		
B	302	114	——	416	6	40,900
	2,912	474	216	3,602		
C	230	26	——	256	14	33,700
	1,636	93	203	1,932		
D	179	52	——	231	7	27,600
	1,672	281	219	2,172		
計	991	283	——	1,274	40	131,200
	8,699	1,267	846	10,812		

＊ その他：総目次115ページ，Abstract 244ページ，Foreword 52ページ，特集号募集案内等付物435ページ

3.3 ニューズレターの発行状況

各ソサイエティ及びグループでは活動の一環としてニューズレター，ソサイエティ誌を論文誌等の付録として下記のとおり発行した．

基礎・境界ソサイエティ	6回	76ページ
通信ソサイエティ	3回	102ページ
エレクトロニクスソサイエティ	12回	48ページ
情報・システムソサイエティ	5回	112ページ
ヒューマンコミュニケーショングループ	2回	8ページ

3.4 論文誌CD-ROMの発行

昨年度に引続き，和・英論文誌平成14年の年間目次，分野別索引，著者索引，キーワード索引を閲覧することができるCD-ROMを下記のとおり発行した．

和文誌	A	250枚	英文誌	EA	250枚
	B	300枚		EB	250枚
	C	250枚		EC	200枚
	D	300枚		ED	250枚

3.5 IEICE Transactions Online

論文誌に掲載されたすべての論文情報をインターネット上で公開する本システムは英文誌が平成11年7月から，また和文誌が平成12年7月から運用を開始し，それぞれの最新データを英文誌は発行20日後，和文誌は6か月後に閲覧することができる．1日当りの総アクセス件数は，1,000件程度に上り，サービス開始時からのアクセス総数は英文約28万件，和文31万件である．